

学校評価(自己評価)公表シート

社会福祉法人アタラシイカタチ

幼保連携型認定こども園 鶴舞やまとこども園

1. 本園の教育・保育目標

教育・保育目標

【心豊かでたくましく生きる子どもの育成】

- 子どもの自ら成長する力と可能性を最大限に発揮し、子どもたちが社会の変化に柔軟に対応し、未来を切り開く力の基礎を培えるように、一人ひとりの子どもを大切にす教育・保育をめざします。
- 0歳児から、就学前までの年齢や発達に応じて、安心感と信頼感を基盤に、生活や遊びの中で、必要な経験を保障し、自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決していく力が身につくように育てます。
- 部屋の空間、設備、子どもの成長に必要な道具、遊具など、子どもの発達の連続性を考慮した活動ができるよう園全体の雰囲気とクラス的环境をつくります。様々な遊びや感覚的なこと、言葉や数の遊びなど、子どもがやってみたいと思うような遊びの環境を準備します。またその中で、一人一人の興味や得意なことが伸びていくように援助します。
- 一人ひとりの『最善の利益』を尊重し、実践するとともに、人権を擁護し、虐待の防止に努めます。
- 子どもと子育て家庭への支援の充実を図ります。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目を設定し、それらに沿って自己評価を実施し、職員が主体性を持って客観的に自園の教育内容・保育内容をチェックし、重点項目について点検と改善に取り組む。

3. 評価項目の達成と取組み状況

評価項目	取組み状況
こども園の教育・保育理念や方針に沿って教育・保育課程を編成している。	奈良市のバンビーノプランを参考に、職員で研修し、園の教育・保育理念に沿った全体的な計画になるように作成している。 一人ひとりの子どもを大切にする保育と、園の特色を反映させた教育ビジョンを作成した。
指導計画は、教育・保育要領、教育・保育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成されている。	各クラスの子どもの姿をしっかりとらえ、計画を立てられるようにした。 指導計画作成について研修し、実態に合っているかを確認しながら取り組むことができた。

子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	保育教諭は、毎日の観察や記録をもとに子どもの実態を把握し、話し合いながら具体的な実践に努めている。 支援が必要な園児に対しては個別に指導計画を立てて援助したり、関係機関と連携を取ったりしながら保育を進めた。
毎月、各クラスの成果と課題を報告し、確認している。	毎月の月案、週日案で反省評価を行い、主幹、園長と共有しながら職員会議で職員に報告している。 各クラスの取り組みをドキュメンテーションで表し、記録している
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人一人の子どもに寄り添い、良さを認め、保育教諭が客観的に見る目を養うように努めている。
遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	自ら選んで遊ぶことができ、それを発展させて友達と協力して遊んだり、工夫したりできる環境づくりを「FUNDAY」と設定して毎月の取り組みとした。子どもたち自身で遊びを工夫したり、友達と一緒に遊んだりする姿が増えた。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	一日の生活の流れの中で、基本的な生活習慣が身に付くように促している。

教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	毎月の職員会議の中で、事例の研究や取り組みなどの情報交換をしている。講師を招請し乳児、幼児の園内研修を毎月開催した。教育・保育の質が高まり、保育環境を整えることができた。 関係機関と連携し指導やアドバイスを受けて保育に生かしている。
園だよりや各種研修会を通して、子ども園の情報を発信していく。	日々の保育の様子をコドモンで配信、園だよりやクラスだよりで保育のねらいや内容を伝える。ドキュメンテーションを作成して実際の遊びや子どもの学びを伝える。地域の会議でこども園の様子を報告する等、より積極的に園の取り組みについて、情報発信に取り組んでいる。
保護者のニーズの把握のために、要望や苦情に適切に対応をはかる。	年間2回の個人懇談、年3回のクラス懇談、年1回の保護者アンケートの実施、毎月の参観、年3回の学校評議員会を通じて、保護者の考えを聞きながら園の考えも伝え、改善に努めている。 苦情に関しては担当を決めて対処し改善している。

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価について教職員が研修などで趣旨や意味を理解し、適切に自己点検や自己評価に取り組む姿が見られた。今後も自らの教育や保育を日々振り返りながら、反省や改善を繰り返し、充実した教育・保育を実施していきたい。また、保育環境の見直しも随時行っていきたい。

5.今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
<p>安全教育と安全管理</p>	<p>不審者の侵入防止や対応など、危機管理マニュアルの徹底と日頃の訓練を通して職員の意識の向上を図る。</p> <p>ヒアリハット研修を通して安全点検を徹底し、安全教育に努める。</p> <p>大型遊具の安全な使い方を研修し、子どもがのびのび動ける環境を作っていく。</p>
<p>自己点検・自己評価</p>	<p>人権擁護のためのセルフチェックリストを使って一人一人を大切に する保育の自己点検をしたり、職員間で話し合ったりし保育の見直しを心がけた。今後も各職員においてさらに課題を設定し、子どもの気持ちを受け止める、保護者の気持ちを理解することなど自己研鑽に取り組むようにする。</p>
<p>指導計画の編成</p>	<p>教育・保育要領をもとにバンビーノプランを理解し、学びながら、子どもの実態に即した指導計画の立案を目指していく。</p> <p>また、園の特色について話し合い、子どもの実態に合った教育方法を確認し、より良い園づくりを行うようにする。</p> <p>IB教育への取り組み方を研修しながら、職員の共通理解を図っていく。</p> <p>職員の負担が減るように ICT の導入を進めていく。</p>